

会議の名称	第5回 合志市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議	
開催日時	平成28年6月29日 午前10時	
開催場所	合志市役所合志庁舎 3階執行部控室	
議 題	平成27年度事業の実績報告と意見交換	
会議の公開・ 非公開の別	公開 ・ 非公開 ・ (一部) 非公開の場合、その理由	
	一部非公開 〔傍聴者 3 名〕	
出席者	委員	松村 友記、上田 耕太郎、下津浦 一博、三城 大介、松村 和信、土佐 晋也、迫田 裕治、池永 けい子、坂井 竹志
	事務局	濱田 善也、坂本 政誠、工藤 一伸、杉村 輝彦、九重 浩光、鷹巣 孝之
欠席委員	坂本 夏実	
議事内容	1『市民の健康と財政の健康を実現する「健康都市こうし」推進事業』及び4『市民の健康と財政の健康を実現する「健康都市こうし」推進事業』について 《委員の意見等(要旨)》 A委員： 1と4の事業について内容がダブっている。1つの台帳にまとめても良いのではないかと。 B委員： 4の事業名が「健康寿命延伸産業創出推進事業」について、「4大成人病」から「5大成人病」になって久しいが精神疾患に触れていないのはどうだろう。入院費の約半分は精神疾患なので、そこに対することを書いた方が総合戦略としては良い。 C委員： 書類の作り方について、事業名があって基本目標があるが、事業名が変わって基本目標に同じものが入るのが気になる。 D委員： 所管課が政策課とか生涯学習課とかあるが、事業毎に課が決まってい担当者があると思う。それで出てきた案件をまとめてあるのだろうか。 合志市： 担当がつくったものを政策課がとりまとめをしているが、バラバラの感じもあるのでもう少し整理をした方が良かったのかもしれない。 E委員： 「新ヘルスケア作業における新規雇用数」は、新ヘルスケア産業というものがあるところに雇用されたことをもってカウントされるのか、新たにヘルスケア産業が発生してそこで雇用されて初めて1件になるのか、それによってKPIの数字が変わってくる。 C委員： 両方カウントするものと思って見ていた。事業が発展すれば、大きくなればなるほど雇わなければならない。それはそれで成果として見て良いのではないかと。 E委員： まだ正確に掴んではいないだろうが、ゼロではないだろう。	
	2『未来輝くコンテンツクリエイター創業育成事業』について 《委員の意見等(要旨)》 A委員： 最終的には産業が来ないと、この人たちの就職先が無いということになると思う。誘致とかインキュベーション施設整備とか、今後取り組んで行く方向性はどうか。 合志市： 昨年度は初年度ということで、まず人材育成。誘致の話も内々に進めているが、企業は仕事は東京から持って来るが人材は合志で確保して欲しいということなので、2年目も主に人材育成に力を入れる。 E委員： 事業概要で20コマの育成塾を実施するとなっていて、次頁の実施計画で全部12コマになっている。その他の8コマがどこに入っているのか。 合志市： コンテンツの塾が12コマで、その以外に例えば金融、事業計画、知的財産の話とか、それを含めると20コマになる。 B委員： 事業目的のところは、少しロジック的に納得できない。「選択肢の一つとして新たにコンテンツクリエイター事業を提案する」とか言う文言を入れると、より理解が深まると思う。	

	3『“女性”の「ワーク・ライフ・デザイン」サポート事業』について 《委員の意見等(要旨)》 F委員： 地域サポーターの養成講座の受講生31名の受講があったということだが実際登録されたのは何名か？延べ人数ということもあるか。 B委員： 延べ人数ではなく毎回31名。30名で締め切ったが、どうしてもという方がいて31名となったと聞いている。31名以上の申し込みがあったようだ。 F委員： サポーターになられた方は報酬を受け取るのか。雇用ということではないかもしれないが、収入が発生するということであれば、効果も期待できるのではないと思った。 B委員： 講座の講師をしていたのでわかる範囲で話す。このサポーター講座に関しては、毎回終わる度に具体的な事例に関する相談が多く寄せられた。実際に何らかの形で関わっていて、講座を受けてスキルアップしようとしている方が多く見受けられた。 G委員： この受講はたぶん1回で終わらないだろう。毎年受講して、次の年も同じ人たちなら150名にはならない、ということのを少し考えておかなければならない。 F委員： KPIが150名で上がっているが、地域に150名の方が必要かどうか。 合志市：(事務局) 先ほどのコンテンツの塾も、2、3年目でスキルアップしたい方も、新たに入りたい方も、両方いると思う。これには2パターン用意しようかと話している。受講者の状況を見ながら、KPIの修正についても再考が必要になってくるかもしれない。 B委員： 去年アンケートの定性調査の分析をした。要するにブランディングとしては、子育てに優しい子育てしやすいということだが、実際に入ったらそこまでのものはどうだろうという意見が多数あった。地域性で感覚が違って、例えば虐待の問題が起きてもキャッチアップが難しく、とても深刻なケースにならないと表面化できない部分があって、去年のこの場でも論議の対象となった。多分、当初の目的としては広く浅くの知識の方を150名というふうになっていったと思うが、それを考えた時にある程度キャッチアップとしてのスキルを持った30名、50名の方が今の合志市のニーズには合っているのかもしれない。 B委員： 「虐待の連鎖」といって、虐待を受けた親が自分が親になったとき、虐待の加害者になる確率が3割から4割と言われているが、まだ日本の基礎自治体では、加害者支援という形でメンタルケアをほとんどやっていない。虐待をしたくてしている親はほとんど無く、ある意味被害者で、救済の対象となる。だからスキルアップとリンクさせていくと、日本で初めての基礎自治体での取り組みとなると思う。そのためには、深くある程度のブラッシュアップできた人を育てるところと、有料でのある程度のそういうコミットされた形での相談支援の提供という形になって、それが人の流入に加速をかけるのと、少しだが雇用創生につながっていくので、ここはもう少し練り直した方が良い気がする。 G委員： 予算の内訳の中の地域協議会とか支援協議会とか、こういった協議会はいろいろやっている事業の中で地域サポーターとか自立支援プログラムというものが今回の補助の対象になっているという考え方で良いのか。 合志市：(事務局) これは2016年度の予算内訳で、様式2で示した900万1千円が交付金が充当された事業になっている。女性のワークライフデザインサポート事業については、基礎交付分ということで900万1千円が交付されている。2016年度予算内訳で出ている部分については基本的に今のところ市の一般財源。 D委員： 練り直しについては担当課と十分打ち合わせをして、この会議に次回以降出していくことはできる。31名受講されたということだが、まだ登録されていなくて、今から登録をしますという通知を出すところのようだ。サポーター支援の方とタイアップ支援の方がダブっているということはあるか。 合志市：(事務局) 分からないがダブっているかもしれない。
--	---

	5『官民広域連携による女性輝く地域づくり事業』について 《委員の意見等(要旨)》 A委員： 今後もこの予算規模になるのか。 合志市： 肥後六華の會が目指しているのは、自律自走でやっていく新しい枠組みと取り組み。3年目4年目となるに従って、市の負担は幾らかしていくことにはなと思うが、国の交付金の規模がこのまま続くかどうか今のところは不明。 C委員： 成果としてはどうなのか、観光推進を1年やって何が合志市にプラスになったか。 合志市： 観光の分野では、合志市としてはあまり期待していない。しかし菊池市と高森町が観光で盛り上がることによって、その中間地点として合志市は交流拠点になるというイメージを持っている。 C委員： 例えば熊本電鉄では台湾からインバウンドを引っ張ろうとくまモン電車をやっている。御代志駅に着いているが、何もないのでどうしたものかと思っている。観光客を合志市に連れてくるのは相当難しいと思うが、たまたま来ている。成果が出ていないなら出るような何かが無いかと思っていた。
	6『賑わいある街並み創造推進事業』について 《委員の意見等(要旨)》 H委員： 基本目標があってそれを達するために数値目標がある。そしてそれを達成するためにKPIの目標数値があるという流れ。KPIの数値目標に対して単純に5年間の目標を5で割ると単年度の数値目標が出てきてこの数値目標に対して前年度どうであったのかという結果が出ていると思う。では遅れている事業に対して今後どうやっていくのか。今まで通りで良いのか。考える必要があるのではないかな。 合志市： 基本目標に対してKPIを作って、5年間の計画としてあげている。随時見直しをかけながら、検証していただいて成果を載せ、目標数値を見直す、そういった作業をやる必要があると思う。行政だけでは見落としてしまう、気付かない部分があるので、皆さん方から指摘をいただいてより良い戦略に切り替えていく、そういう作業をしていきたい。 C委員： 熊本地震で被災した人がいて、熊本で住むならどこが安全だろうかという話をした。その方は熊本市東区に住んでいて家が全壊した。私は熊本市北区だが、合志市とか良いのではないかなという話をした。地盤が固いし、地下水が深い、それから南斜面で日当たりが良いという話をした。これだけ大きい地震は400年来ないかもしれないが、いつ来るか判らない。家を作るにあたって、とても怖くて住めないという話をされていた。 I委員： 今回の地震においても、水道こそ一部濁りはしたものの事実上殆ど止まらず、電気も止まらない中であつたということで人気自体は高い。周民間賃貸住宅の需要が非常に旺盛な分、今はほぼ無い状態。ここに記載があるような、空き家として、使われていないものが災害時にストックがあると合志市として果たせる役割が非常に大きいと思う。立地的、地域的メリットというものは今後大いに打ち出して行けるのではないかな。復興計画の中に盛り込んで加速化させると、合志市の復興計画が熊本県全域にも貢献できるのではないかなと思う。 合志市： 次の会議については、来年度予算を組む前の時期としたい。